

【報道関係各位】

2018年10月4日
一般財団法人 日本気象協会

日本気象協会 2019年 春の花粉飛散予測(第1報) ～“多かった前シーズン”ほどではないが、飛散量は全国的に「例年並み」か「やや多い」～

◆2019年 春の花粉飛散予測のポイント (2018年10月4日 発表)

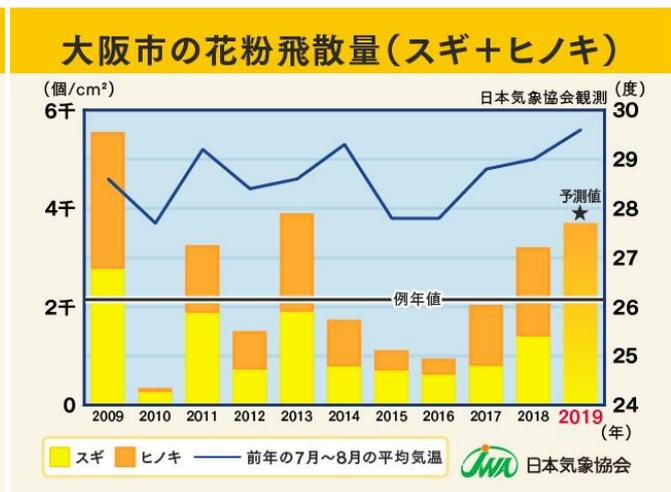
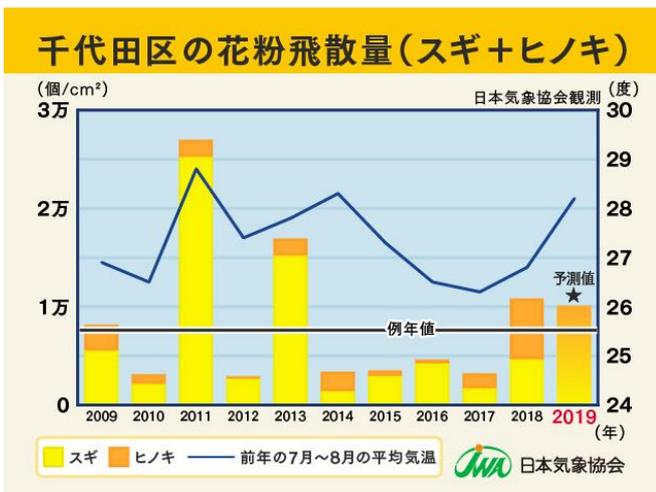
- ・全国的に例年並みかやや多い
- ・東日本、中国地方で例年の1.5倍前後に！
- ・多かった前シーズンと比べて関東甲信、東海地方では少なくなるも例年以上
- ・北陸、近畿地方では前シーズンよりもさらに多い見込み

一般財団法人 日本気象協会（本社：東京都豊島区、会長：石川 裕己）は、2018年10月4日（木）に全国・都道府県別の2019年春の花粉（スギ・ヒノキ、北海道はシラカバ）飛散予測（第1報）を発表します。また、詳細な情報を、「2019年春の花粉総飛散量 予測資料」として販売します。

1. 2018年シーズンの花粉飛散状況まとめ

2018年シーズンの花粉の飛散量は、全国的に例年よりも多くなりました。特に、青森や宮城、栃木、群馬、静岡、鳥取では非常に多くなりました。

また、東京と大阪の過去10年の飛散傾向を見てみると、東京、大阪ともに2014年以降の4年間は飛散量に目立った増減がなく、例年の飛散量より少なく推移していましたが、2018年は例年値を超えました。2019年シーズンは、東京、大阪ともに2018年シーズンに引き続き、例年を超える予測のため注意が必要です。



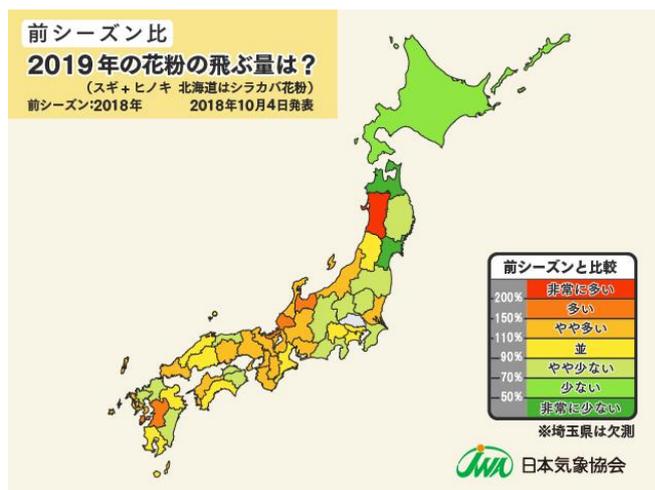
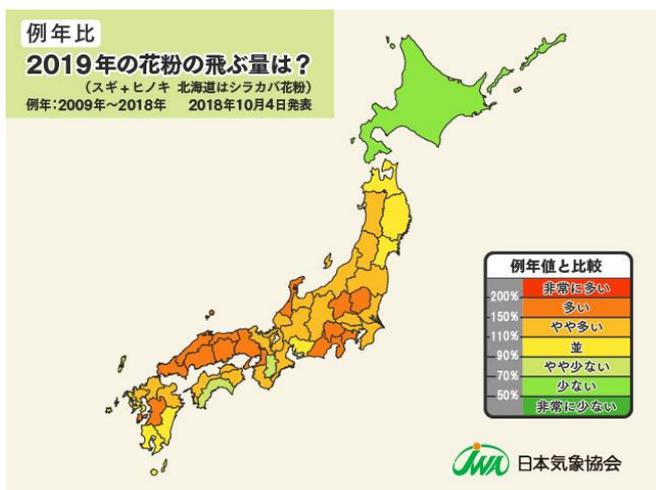
2. 飛散量の予測根拠

花粉の飛散量は前年夏の気象条件が大きく影響します。気温が高く、日照時間が多く、雨の少ない夏は花芽が多く形成され、翌春の花粉の飛散量が多くなるといわれています。2018年の夏は、東北から九州にかけてかなり気温が高く、日照時間も多くなりました。降水量は、長雨はありませんでしたが、短期間に大雨となったことで全国的に平年より多くなりました。

3. 2019年シーズンの花粉飛散傾向

2019年春の花粉飛散予測は、東北から近畿、九州地方までの広い範囲で例年を上回る見込みです。特に東海地方は例年よりも多い予測のため、注意が必要です。北海道地方は例年よりも少ないでしょう。

一方、前シーズン比で見ると、東北や関東、四国や九州地方の一部では、多かった前シーズンに比べて少なくなる見込みです。しかし、例年よりは多い地方が多いため気は抜けません。なお、秋田が前シーズンよりも非常に多い予測ですが、これは前シーズンの飛散量が少なかったためです。



4. 各地域の花粉飛散傾向

地方	飛散量				2018年夏の気象		
	例年比	地方平均値	前シーズン比	地方平均値	気温	降水量	日照時間
北海道	少ない	60%	少ない	50%	平年並	かなり多い	少ない
東北	やや多い	120%	やや少ない	70%	かなり高い	平年並	平年並
関東甲信	やや多い	140%	前シーズン並	90%	かなり高い	平年並	かなり多い
北陸	やや多い	140%	やや多い	140%	かなり高い	平年並	かなり多い
東海	多い	160%	前シーズン並	90%	かなり高い	平年並	かなり多い
近畿	やや多い	120%	やや多い	120%	かなり高い	かなり多い	かなり多い
中国	多い	160%	前シーズン並	90%	かなり高い	平年並	かなり多い
四国	例年並	100%	前シーズン並	90%	かなり高い	かなり多い	多い
九州	やや多い	130%	前シーズン並	100%	高い	多い	平年並



【花粉の種類について】

北海道はシラカバ、その他はスギ・ヒノキ花粉の飛散量を表します。

【飛散量に関する言葉の説明】

非常に多い	: 前シーズン (例年) の 200% 以上
多い	: 前シーズン (例年) の 150% 以上 200% 未満
やや多い	: 前シーズン (例年) の 110% 以上 150% 未満
前シーズン(例年)並	: 前シーズン (例年) の 90% 以上 110% 未満
やや少ない	: 前シーズン (例年) の 70% 以上 90% 未満
少ない	: 前シーズン (例年) の 50% 以上 70% 未満
非常に少ない	: 前シーズン (例年) の 50% 未満

前シーズン	: 2018 年シーズン飛散量
例年	: 過去 10 年(2009~2018 年)の平均値

【2018 年夏の気象に関する言葉の説明】

平年	: 1981~2010 年の平均値
----	-------------------